

だから兵教大！教職大学院の魅力語る

2/19 「先輩からのメッセージ」

セミナー通信

教育実習総合センター

昨年度末の現職教員を除く教職大学院修了者(43名)の教員就職率は100%を達成しました。そこで、本学教職大学院の魅力について、セミナー通信後期編集委員の立場から、本年度の実地研究や教育実践セミナー等を振り返りながら語ってもらいました。

2/19 大田さんプレゼンより



服部 先日、小コースのP3生がP1生を対象に、教採の体験談を語る機会がありました。参加したP1生に何か変化が見られましたか。

城 早速キャリアアセンターに行き、関係資料をコピーして

受験先の情報収集に努めている友人が何人かいました。清友 3月中旬にP1生が集まり、主体的に面接練習をする話もあり、効果大です。

城 僕は既にやみくもに勉強を仕掛けていたのですが、話を聞いていつまで何をすべきかはつきり理解できませんでした。まだゆとりがあると思っていたのですが、今春が勝負だと思いました。

坂本 第1部の経験談も参考になりましたが、第2部の3グループに分かれた質疑の時間も役立ちました。時間の経過を忘れるほど充足感があり、盛り上がりましたよ。



(左からP3発表者の瀧さん、中西さん、大田さん、石田さん、安富さん) 2/19



(3グループに分かれた質疑応答の分散会。左から2人目は司会者の高相さん)

P2

小学校教員養成特別コース
実地研究 (11/18~2/20)



藤池陽太郎さん



吉田成寿さん



伊藤未名さん



吉田賢彦さん



中原大典さん



鈴木文彩さん



上田 賢さん



林 健吾さん



鷹尾真秀さん



岡 美江さん



橋 貴司さん



北山順悟さん

まだまだ実践力不足ですが、来年度もよろしくお願いたします。

いつも笑顔で、子ども達と向き合いました。

級通信の作成に役立つと思いい、3人で頑張ることができました。

瀧 私は、一人でも多くの人に読んでもらいたい、関心を持ってもらいたい、質問内容にとても苦労しました。でも、協力いただいた先生にお話を伺い、良い経験になりました。

清友 瀧さんが言われた読者の立場で書くことは、ホント大切だと思います。私教職大学院に入学する前、JAに勤務し広報担当の仕事をしていましたので、読者の目線と、伝えたいことを文章にする難しさを常に痛感していました。

甲賀 私も社会人経験があり、文章を書く難しさを経験しましたが、それ以上に「個人情報保護」の配慮が必要だと感じていました。このことは、これから学校現場でホームページ作成や学校新聞発行等の分掌に携わった場合、とても重要になるでしょう。加えて、私は取材を通して多くの先生方と出会い、教育課題について直接学ぶことができ、貴重な経験をさせてもらいました。

瀧 教職大学院の魅力は、困った時に、各コースで指導いただく先生方やコーディネーターの先生方が、納得するまで気軽に個別相談に応じていただけるところで

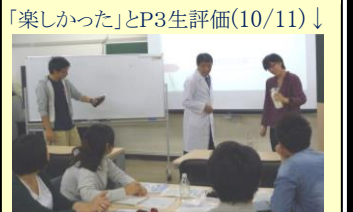


兵庫教育大学教職大学院の魅力を語る座談会 (2/21)

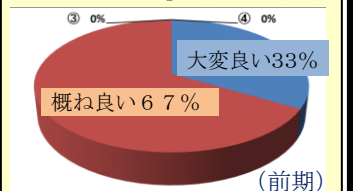


外部講師招聘
講義で司会を経験(6/5)
島本勇希さん (P2)

外部講師招聘
(理科好き講義)



「楽しかった」とP3生評価(10/11) ↓



す。お陰様で私も成長でき、編集委員の仕事も全うできたように感じています。

瀧 P2の後期は、大学を離れ連携校で実地研究中のため、編集委員として十分な役割を果たすことができませんでした。私のしたことといえば、編集会議の出席やP2生への連絡調整、掲載写真の編集、それに配布方法等について、内井さんと協力して実践したぐらいです。でも、やりがいを感じていました。

内井 私は、セミナー通信の発行を気に留めながら、毎金曜日にセンターへ足を運んでいました。P2生の反応としては、毎月掲載される仲間の写真を楽しみに見て、互いに刺激を受け、また励みになっていたと聞いています。

甲賀 ここにいる7人は、編集委員という新しい試みにトライして互いに充実感を感じ、一人一人が大きく成長できたと思います。また、P1・P2・P3の横の連携ができたのも大きな収穫でした。願わくば、教育時事問題をもう少し取り上げていただくかなと反省点も感じています。

森 来年度の課題が出ましたね。他にも、P1生とP3生の合同取材や、カラー印刷による発行、ワークシヨップ型学習の導入、他コース生の編集委員選出等の意見も届いていますので、配慮していきます。皆さん、ご苦労さまでした。

実地研究・インターンの成果

城 私が本学を受験したのは、教職大学院の特色である実地研究やインターンシップの制度に必要性和魅力を感じたからです。来年度から始まるこの実習について、アドバイスをいただけませんか。

瀧 P2の実地研究は、担任としての学級指導や授業指導の在り方等について、3ヶ月という長期実習により実践力を学ぶものです。また、P3のインターンシップは、自分の研究テーマについて深く考察できる実習です。私にとって、この実習は「自分を鍛え、見つめ直し、向上させる



の学校訪問をしました。何度か学校訪問をしましたが、多くの先生から「教職大学院生は、ひと味違う」と、受入を歓迎するコメントが相次ぎ、大変うれしかったです。このことは、皆さんを含め、これまでの先輩たちが前向きに努力し、メンターの先生が皆さんの良いところを引き出して頂いたお陰だと思います。教師になれば、いろんな人と繋がります。甲賀さんが言ったように視野の広い先生が求められます。コーディネーターの先生方は、皆さんの個性や特性に合った指導を心がけていますので、これからは教育実習総合センターを訪ね、セミナーにも積極的に参加してください。お疲れさまでした。

編集後記

本年度、従来の内容に加えて、教育法規の実践や教採過去問対策等をセミナーの改善点として実施してきました。また啓発活動として、前期3人、後期7人に編集委員として加わっていただき、毎月1回「セミナー通信」を発行してきました。教師は、子どもたちに「夢と希望」を語る職責を担った重要な仕事です。皆さんの更なる飛躍を期待し、今年度最終号とします。